品川・大田ゆかりの 幕末・明治の偉人たち

大海の彼方からやってきたもの
おそろしく大きく避けられないうねり
それを全力で受け止めた人
彼らの足跡は今もここ品川・大田に…

坂本龍馬（1835〜67）さかもとりょうま

品川沖に現れた黒い船が、その魂をかき立てた。
くすぶる数多の志に火をつけた男。

土佐藩郷士。幕末の志士。ペリー来航時に江戸警固のため臨時招集され、品川の土佐藩下屋敷にて守備についたとされる。貿易会社と政治結社の亀山社中を結成（後の海援隊）。薩長同盟締結を仲介し、倒幕派を結集。前土佐藩主山内容堂を説き、大政奉還を成す。妻お龍との温泉療養は日本初の新婚旅行とされる。長崎から兵庫へ向かう夕顔丸の船内で書かれた王政復古の目標とされる政治綱領は「船中八策」として有名。京都・近江屋で暗殺される。

品川・大田 幕末・明治の史跡

浜川砲台 ①

沿岸防備のため浜川砲台に据えられていたという8門の大砲のうち、6貫目ホーイッスル砲を復元。品川龍馬会や地元有志、商店街らの募金活動などにより、平成27（2015）年11月に復元設置された。
【品川区東大井2-26-18／新浜川公園】

坂本龍馬像 ②

平成22（2010）年に建立されたもので、二十歳の龍馬像である。この像には平成11（1999）年に修復された高知県桂浜の像の金属片が溶かしこんであるという。龍馬の視線は新しい国家の姿を見ているかのようである。
【品川区東大井2-25-22／北浜川児童遊園】

岩倉使節団の一員。
激動の時代を、深い探究心で、
見つめ、学び続けた。

日本海軍・海事の恩人
ゼームス坂にその名を残す。

鈍翁と号した茶人は、
御殿山に暮らした大実業家。

久米邦武 くめくにたけ

(1835〜69)

佐賀藩士、歴史学者。藩校弘道館内寮生時代に大隈重信と出会う。文久2(1862)年、江戸に出て昌平坂学問所に学ぶ。明治4(1871)年、岩倉使節団の一員として欧米(アメリカとヨーロッパ12カ国)を視察し、明治6(1873)年9月帰国。その成果として「米欧回覧実記」編集。その後、修史館(現、東京大学史料編纂所)に転じ、古文書学の命名とともに古文書学の基礎をつくる。目黒駅前の久米美術館は邦武・桂一郎(洋画家)父子の業績を展示。

J・M・ゼームス

(1839〜1908)

英国人航海士、海軍省お雇い外国人。幕末にジャーデイン・マセソン会社長崎支店(グラバー商会)勤務となり来日。明治5(1872)年、海軍省に入り航海術教授として筑波艦で指導したほか、日本海軍創設や海事に功績を残した。太平洋戦争中もゼームス坂は改名されずに残った。長く南品川に住み、急坂だった浅間坂(せんげんざか)を私財で改修したほか、城南小学校増築の際には寄付をするなど地元との関係も深い。墓所は山梨県身延町・久遠寺。

益田孝 ますだたかし

(1848〜1938)

明治から昭和前期の実業家。文久3(1863)年、父孝義の従者として渡欧。明治維新後、三井家に招かれて初の総合商社三井物産社長に就任。設立に関係した会社に中外物価新報(現:日本経済新聞)・大阪紡績など多数あり、三井財閥を支えた。千利休以来の大茶人と称され鈍翁(どんのう)と号した。美術愛好家としても著名。品川御殿山の広大な邸内の茶室、妙善庵・太郎庵は名席として知られ、陶器窯が設けられ、お庭焼を賞味する雅人であった。

久米美術館 ③

久米邦武とその息子で近代洋画家の久米桂一郎の業績に対面できる美術館。当地は、邦武が、富士の見晴らしの良いことを好み、「林間の山荘」として購入した。

【品川区上大崎2-25-5久米ビル8階】
■電話:03-3491-1510
■10時〜17時(入館16時半まで)月、展示替え期間、年末年始休館
■一般500円・大・高生300円・中・小生200円

品川歴史館 ④

品川区の原始・古代〜現代までを閲覧できる歴史民俗資料館。浮世絵にも描かれた東海道「品川宿」の展示をはじめ、幕末動乱から明治へと、次第に近代化していく品川を、ミニチュア模型など視覚的にも楽しめる工夫満載で展示している。【品川区大井6-11-1】
■電話:03-3777-4060
■9時〜17時(入館16時半まで)月、祝、年末年始休館
展示替え、資料室燻蒸などの臨時休館もあります。
■一般100円・小・中学生50円(特別展は別途設定)

御殿山下台場跡 ⑤

台場小学校入り口にある品海橋を築いた石と、昭和32(1957)年まで第二台場にあった品川灯台のミニチュア(実物は、重要文化財として愛知県の明治村に移築)。黒船来航後、1年とかからずに急ピッチで築造されたお台場は、ペリー来航がどれほど衝撃的な出来事であったかを物語る。【品川区東品川1-8-30】

「板垣死すとも自由は死せず」は、遊説中に刺客に襲われた時に言ったと伝えられる有名な言葉。

明治維新の先駆者として土佐藩の藩政刷新に努め、幕政にも大きな影響を与えた。

日本の近代化に不可欠な鉄道敷設に尽くした「鉄道の父」。

板垣退助（いたがきたいすけ）

（1837～1919）

土佐藩士。幕末・明治時代の政治家。幕末、藩の世論を尊王・倒幕に導く。戊辰戦争では藩兵を率いて参戦。維新後は新政府の参議を勤めた。西郷隆盛とともに征韓論を唱えたが破れて下野（げや）。明治7（1874）年、日本最初の政党、愛国公党を結成、その後の自由民権運動の先頭に立つ。国会開設後、自由党を結成。第二次伊藤博文内閣の内務大臣〈明治29（1896）年〉、大隈重信内閣の内務大臣〈明治31（1898）年〉を務めた。晩年は社会事業に尽した。

山内豊信（容堂）（やまうちとよしげ）

（1827～72）

土佐藩15代藩主。隠居後は容堂、別名は鯨海酔侯（げいかいすいこう）。幕末の四賢侯の一人。

藩政に吉田東洋らを登用して改革に努め、幕政にも大きな影響を与えた。将軍継嗣問題では一橋慶喜の擁立に尽力したが家茂（いえもち）に決まり、隠居、後に謹慎となる。公武合体の実現を模索。坂本龍馬発案の船中八策を後藤象二郎から進言され、将軍慶喜に大政奉還を建白。遺言により下総山（立会小学校校庭横の大井公園、旧鯖江藩（福井県）間部家下屋敷跡）が墓所となった。

※幕末の四賢侯：山内容堂・松平春嶽・伊達宗城・島津斉彬。

井上勝（いのうえまさる）

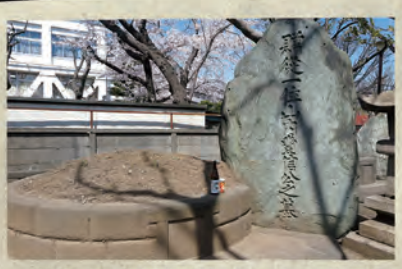
（1843～1910）

長州藩士。鉄道頭（てつどうのかみ）、鉄道局長、鉄道庁長官。文久3（1863）年、伊藤博文（俊助）らと脱藩してイギリスに渡航し、鉄道・鉱山学を学ぶ。明治4（1871）年初代鉄道頭に就任し、翌年5月に品川・横浜間の仮営業（新橋・横浜間の全通は9月）が開始される。日本の鉄道創設、発展に尽力し「鉄道の父」と呼ばれる。退官後、汽車製造会社を創設し機関車の国産化に尽力するなど、一生を鉄道に捧げた。鉄道記念物にもなっている東海寺大山墓地の墓所から、京浜間の鉄道安全を見守るように眠る。

板垣退助墓所 ⑥

生い茂る木々の木漏れ日が差すのは板垣退助とその夫人の墓。関東大震災の後、世田谷区に移転した高源院の墓地であった場所に墓だけが残った。傍らには「板垣死すとも自由は死せず」を刻んだ石碑がある。品川神社の社殿裏から入る。【品川区北品川3-7-15／品川神社社殿裏】

山内豊信（容堂）墓所 ⑦



幕末、立会川付近にあった土佐藩下屋敷に隠居・謹慎していた山内豊信（容堂）は今も大井の地に眠っている。円墳に墓石を配した珍しい造りの墓には、「鯨海酔侯」を慕ってか、今も人知れず酒が供えてあることも。【品・東大井4-8／大井公園 公開時間 午前9時～午後5時（12/29～1/3は見学不可）】

東海寺大山墓地 ⑧

井上勝墓所

井上勝の眠る大山墓地のある東海寺は、三代将軍徳川家光が、名僧沢庵のために建てた寺として有名。小堀遠州作の広大な庭園も有したが、明治維新後に壮大さは失われていった。沢庵和尚の墓は巨大な漬物石のようだ。【品川区北品川3-11-9】

幕末・維新に散った盟友たちの志を胸に
初代内閣総理大臣となった。

「面白きこともなき世を面白く」。
古き時代を断ち切るその生き様。

高杉晋作
(1839〜67)
たかすぎしんさく

長州藩士。号は東行(とうぎょう)など。尊王攘夷運動における倒幕派の中心人物。松下村塾の門下。長州藩内に奇兵隊を結成で知られる。上海に滞在し、日本の危機を実感。文久2(1862)年、久坂玄瑞・伊藤博文(俊輔)らと品川御殿山に建設中のイギリス公使館を焼討ち。脱藩の罪で入牢、許されて下関戦争の講和使節となる。伊藤らと馬関(下関)に挙兵したことで、藩内の倒幕派が主導権を握り、幕府の第二次長征軍と対決せしめた。海軍総督、馬関海陸軍参謀として活躍。慶応3(1867)年4月下関にて病没。

「港区立港郷土資料館」所蔵資料

伊藤博文
(1841〜1909)
いとうひろぶみ

長州藩士。松下村塾の門下。維新の功臣。幕末・明治時代の政治家。初代内閣総理大臣。

文久2(1862)年、久坂玄瑞・高杉晋作らと品川御殿山のイギリス公使館の焼討ちに加わる。翌年、志道聞多(井上馨)らとイギリスに密航。維新後、岩倉具視らと欧米諸国を巡る。憲法草案にかかり明治22(1889)年年にその発布をみた。明治42(1909)年、ロシア蔵相との会談のため中国東北部のハルビン駅頭にて暗殺された。国葬をもって品川区西大井の伊藤家墓地に葬られた。大井三丁目の伊藤博文別邸は平成10(1998)年に萩市に移築。

岩倉具視、松平慶永
由利公正の墓所がある

海晏寺

※一般の方は境内を含めて非公開

幕末・明治に活躍し、後世に名を残した人々が海晏寺後丘に眠る。鎌倉時代に創建された古刹。江戸時代、海晏寺南斜面の紅に染まったモミジは江戸第一といわれ、文人など多くの見物客が訪れた。その美しさは、歌川広重らの錦絵の題材にもなった。

志士たちが
「イギリス公使館焼討ち」
の密議を行った

土蔵相模

品川歴史館にミニチュア模型を展示。

土蔵相模跡 9

旧東海道品川宿でも有数の規模を誇り、なまこ壁で飾られていた旅籠屋「土蔵相模」。高杉晋作、伊藤博文らが密議をしていたこの場所も、今は案内板のみである。品川歴史館に行けば、ミニチュア模型なども見ることができる。
【品川区北品川1-22-17】

伊藤博文墓所 10

日本の初代内閣総理大臣が眠る円墳型墓所は区指定文化財となっている。憲法制定や近代日本の確立に力を注いだ伊藤博文は、別邸が区内にあったなど品川との縁は深く、墓所の近隣にはその名に由来するという伊藤幼稚園、伊藤小学校、伊藤学園などもある。
【品川区西大井6-10-18】※通常非公開

御殿山 11

東都名所　御殿山花見　品川全図　品川区立品川歴史館所蔵

北品川の高台、御殿山には江戸初期、幕府の建てた御殿があり、将軍の茶会や鷹狩だけでなく幕府の重要行事(馬揃)・会議にも使用された。寛文年間に吉野桜が植えられて以来、桜の名所となり多くの浮世絵にも描かれた景勝地だった。一方、長州藩攘夷派による英国公使館焼討ち事件という幕末史の舞台としても知られる。【品川区北品川3〜4丁目】

潔い江戸っ子気質で
海軍や近代国家の礎を築いた。

不遇な時代の経験は、
民のため、心やさしき幕末の英雄
「西郷どん」を生んだ。

西郷隆盛
（1827-1877）
さいごうたかもり

薩摩藩下級藩士の家に生まれる。島津斉彬のもと次第に台頭するが、安政の大獄、斉彬急死と久光の登場により奄美大島や沖永良部島に寓居するなど不遇な時期を送る。復帰後、禁門の変や第一次幕長戦争では長州藩の撃退・降伏に尽力するが、第二次幕長戦争の際には長州藩への出兵反対の藩論をまとめ、翌年には坂本龍馬の仲介で薩長同盟の密約を成立させた。戊辰戦争では勝海舟と会談、江戸無血開城を実現。

明治政府では参議として政策推進に協力、明治7（1874）年に征韓論が起こり自ら遣韓大使としての派遣を望むと、大久保利通・岩倉具視らと対立し下野。鹿児島で子弟教育に努めたが、明治10（1877）年に政府の挑発で私学校の生徒が反乱を起こすと挙兵を余儀なくされ、同年9月24日に政府軍の総攻撃を受け敗死した（西南戦争）。

「国立国会図書館ウェブサイト」より

勝海舟
（1823-1899）
かつかいしゅう

江戸本所の武士（旗本）の家に生まれ、若い頃から剣術や勉学に励み、長崎では最新の学問や航海術などを学んだ。安政7（1860）年に蒸気軍艦咸臨丸で渡米し、元治元（1864）年には、神戸海軍操練所を設立。近代国家へ向けた国内の礎作りや海軍の発展などに貢献した。その後の倒幕勢力との戦いの際には、新政府の西郷隆盛らと交渉。江戸無血開城に成功し、江戸の町を戦火から守った。明治維新後は、参議、海軍卿、枢密顧問官を歴任し、伯爵となった。政治のみならず、和歌や漢詩など文芸にも秀でた偉人だった。

「国立国会図書館ウェブサイト」より

幕末・明治の史跡に出会える、
洗足池公園

勝海舟夫妻の墓所

西郷隆盛留魂詩碑

勝海舟記念館

池上本門寺 ⑫

慶応4（1868）年3月、江戸総攻撃が迫る中、新政府軍・東征大総督府下参謀・西郷隆盛は薩摩藩邸で旧幕府の軍事取扱・勝海舟と面会。海舟は「旧幕府への寛大な処置を条件に江戸城を無抵抗で明け渡す」ことを提示、西郷はこれを受諾した。その翌月、旧幕府の武器・軍艦明け渡しについて海舟・大久保一翁と新政府方との間で談判が行われたのが池上本門寺だった。その翌々日である4月11日、江戸無血開城が実現した。【大田区池上1-1-1】

勝海舟記念館 ⑬

洗足池畔に2019年9月にオープン。国登録有形文化財の旧清明文庫を増改築し保存・活用した全国初の勝海舟記念館。海舟の功績や大田区との縁を紹介するとともに、その想いや地域の歴史を様々な資料やデジタル展示で伝えている。【大田区南千束2-3-1／洗足池公園内】

- 電話：03-6425-7608
- 10時～18時（入館17：30まで）
  月（祝日の場合は翌日）、年末年始、臨時休館日休館
- 一般300円・小中学生100円

洗足池公園 ⑭

江戸無血開城直前の談判のため、新政府軍の本陣が置かれた池上本門寺に向かった勝海舟がこの地を通ったと伝わる。明治24（1891）年、海舟は、池畔に別荘「洗足軒」を構え、隣地に作った墓に眠っている。後に夫人の民子も合葬、「勝海舟夫妻の墓所」がある。【大田区南千束2-14-5】

幕末の洋学者の志は、現在も若者たちへと受け継がれている。

近藤真琴（1831～86）こんどうまこと

鳥羽藩蘭学方、洋学者・国語学者、教育家、攻玉社の創立者。

築地海軍操練所にて修練後、攻玉社学園のもととなる攻玉塾を創設。航海術、測量学の基礎を確立した、数学、土木学の先鞭者。海軍兵学校の一等教官まで進む。明治6（1873）年、ウィーン万博には事務官として派遣され、その後の内国博覧会の審査官として活躍。また仮名文字を推進し、日本初かな書き辞書『ことばのその』の著者。

近藤勇の右腕。新選組では鉄の規律で「鬼の副長」と呼ばれた。

土方歳三（1835～69）ひじかたとしぞう

幕末期の幕臣、新選組副長。多摩郡石田村（日野市）出身。文久3（1863）年、将軍徳川家茂（いえもち）の上洛に伴い、近藤勇らと応募し浪士組（新選組の前身）として京都に入り、京都守護職の配下で尊王攘夷派らの鎮圧にあたる。元治元（1864）年6月の池田屋事件で功績。慶応4（1868）年1月、鳥羽・伏見の戦いに敗れて、海路品川沖に着き南品川宿の御用宿「釜屋」にて宿泊。その後も各地で新政府に抵抗し敗走、箱館五稜郭の戦いで戦死。

東京都名誉都民第一号、議会政治の父と呼ばれた人。

尾崎行雄（1858～1954）おざきゆきお

政治家。号は咢堂（がくどう）。衆議院議員名誉議員。東京都名誉都民第1号。衆議院議員を63年務め「憲政の神様」、「議会政治の父」といわれた。衆議院正面玄関に胸像が設置され、尾崎の功績を称え国会議事堂前の憲政記念館が建設された。兼務していた東京市長〈明治36（1903）年〉～〈大正元（1912）年〉時代、アメリカ・ポトマック河畔に桜（西品川・妙華園主河瀬春太郎が集荷）を送る。尾崎邸〈明治34（1901）年〉頃～〈昭和3（1928）年〉は品川区北品川三丁目の品川学園の校庭付近にあった。

官営品川硝子製造所跡 ⑰

明治に入り日本で最初の西洋式硝子工場（興業社）が設立され、品川は近代工業の先がけとなった。工場は明治9（1876）年、政府の官営工場になり食器用ガラス器など製造、後に民営に。明治25（1892）年解散、区指定史跡として近代硝子工業発祥の碑が建っている。【品川区北品川4-11-5】

※区指定有形文化財の美しいガラス花瓶など、品川硝子の製品の幾つかは品川歴史館に展示。

新選組ゆかりの宿 釜屋跡 ⑯

釜屋は東海道の立場茶屋だったが繁盛し、武家の宿として利用されるようになった。現在は説明板が建つのみだが、慶応3（1867）年10月、土方歳三が休息をとり、また翌年1月には鳥羽伏見の戦いから江戸へ敗走する新選組隊士たちがしばらく滞在した記録が残っている。【品川区南品川3-6-52】

日本ペイント明治記念館 ⑮

明治20年代になると目黒川沿い一帯に工場群が出現、日本の近代工業発展に大きく貢献した。その一つ、南品川の日本ペイント品川工場の一角に残る赤レンガの建物は、明治42（1909）年に建てられた日本最古の油ワニス工場である。品川区内の洋式建造物では最も古いものであり、明治の面影を残す建物として保存され、内部も資料館として一般公開されている。【品川区南品川4-1-15】

幕末維新期の品川・大田は歴史の舞台！

嘉永6（1853）年、ペリーの来航に始まった幕末維新の荒波は品川にも押し寄せてきた。来航から2ヵ月後には、品川沖に江戸警固のためのお台場築造が開始され、江戸の入口である品川宿には、志を抱いた人々が留まり、行き交っていた。幕府が開国への道を歩むと、尊王攘夷派の反幕府運動は高まりを見せ、井伊大老が襲撃された“桜田門外の変”が起きる。その後も、品川宿の妓楼に浪士たちが結集し、外国人襲撃や高杉晋作らによる品川御殿山の英国公使館の焼打ち事件など歴史を変えていく事件を起こしていった。

池上本門寺を本陣とした新政府軍の江戸総攻撃がいよいよ迫った頃、勝海舟は東征大総督府下参謀である西郷隆盛との会談に赴き、総攻撃を防ぎ、その後池上本門寺での新政府との談判を経て江戸無血開城が実現した。本門寺へ赴く道中、通りかかった洗足池の風景に感銘を受け、後に別荘や自らの墓所を池畔に築いた。

大政奉還後、彰義隊の事変で江戸の変転は終末を迎え、江戸は東京と改められた。明治新政府は日本を近代的な国家にするために「富国強兵」をめざし、殖産興業、学制の公布、兵制、税制など、改革のための施策に次々と取り組んだ。品川灯台〈明治3（1870）年〉点灯・鉄道敷設〈明治5（1872）年〉開通・官営品川硝子製造所〈明治9（1876）年〉…そして、東京・横浜間に位置する品川区域は西欧の文化を取り入れた「文明開化」という大きな時代の変化にいち早く直面したのでした。

大田区

勝海舟と西郷
幕末の両雄がここに

文：坂本道夫・渡邉瑞枝
資料提供：品川区立品川歴史館
大田区立郷土博物館
大田区立勝海舟記念館
デザイン・制作：有限会社 緑心社
撮影協力：長谷川 修

ハタチの坂本龍馬が品川を巡る!!
龍馬がおもしろ、おかしく、現代の品川を紹介
YouTubeで動画配信中ぜよ
ハタチの龍馬 検索

品川宿と東海道が運んだ
幕末動乱の足跡

品川区

品川・大田ゆかりの幕末・明治の偉人たちの地図

品川大河アニメ

品川区

問合せ

発行:品川区
初版:2017年2月発行
改訂版:2020年2月発行

一般社団法人 しながわ観光協会 ☎03-5743-7642
https://shinagawa-kanko.or.jp
一般社団法人 大田観光協会 ☎03-3734-0202
http://www.o-2.jp